



※ 各遺跡の○の色は時代を示しています

- | | | |
|---------|-----------|---------------|
| ● 旧石器時代 | ● 縄文時代 | ● 弥生時代 |
| ● 古墳時代 | ● 奈良・平安時代 | ● 鎌倉時代以降 (中世) |

右下矢印の位置が「東山遺跡」



↑

美里町遺跡年表

年代	時代	美里町の主な遺跡	主な出来事
30,000	先史	○後期旧石器時代	○打製石斧の使用
10,000		○猪俣「普門寺西山遺跡」、甘粕「東山遺跡」	○長崎県「泉福寺洞穴遺跡」
5,000	縄文時代	○甘粕「如来堂遺跡」	○青森県「三内丸山遺跡」
1,000		○白石「登所遺跡」、駒衣「南志渡川遺跡」	○千葉県「加曾利貝塚」
300		○白石「栗山遺跡」、古郡「森浦遺跡」	○川口市「安行遺跡」 ○稲作文化が伝わる
紀元前	原史	○広木「後山王遺跡」	○佐賀県「吉野ヶ里遺跡」
0		○甘粕「如来堂C遺跡」 (美里町に米づくりが伝わる)	○卑弥呼が「魏」に使いを送る
1		○下児玉「村後遺跡」	○倭国大乱する
250		○関「石神遺跡」、中里「神明ヶ谷戸遺跡」	○奈良県に古墳がつくられる (箸墓古墳)
300		○白石「羽黒山遺跡」	
		○駒衣「志渡川遺跡(第3号住居跡)」、小茂田「日の森遺跡」	
紀元後		○駒衣「南志渡川遺跡」	



500 600 700 800 1,000 1,200 1,500	古 代	古墳時代	<ul style="list-style-type: none"> ○関「長坂聖天塚古墳」 ○駒衣「志渡川古墳」に埴輪が書かれる (住居にカマドが使われる) ○美里町にたくさんの古墳がつくられる (広木大町古墳群、白石古墳群、塚本山古墳群、猪俣古墳群など) ○中里「諏訪林古墳」 	<ul style="list-style-type: none"> ○巨大古墳がつくられる ○大仙古墳(伝 仁徳天皇陵) ○行田市「稲荷山古墳」
		(飛鳥時代)	<ul style="list-style-type: none"> ○那珂郡那珂郷(美里町)から飛鳥浄御原宮に謝が送られる (672~694) 	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良県「藤ノ木古墳」 ○冠位十二階・憲法十七条の制定 ○大化改新(645) ○飛鳥浄御原宮の造営 ○平城京に遷都(710) ○国分寺の造営
		奈良時代	<ul style="list-style-type: none"> ○猪俣「上野遺跡」 ○このころ大仏廬舎(駒衣廬舎)がつくられる ○駒衣「北貝戸遺跡」、南十条「十条条里遺跡」 ○木部「木部 原遺跡」 	<ul style="list-style-type: none"> ○平安京に遷都(794) ○藤原氏による摂政政治
		平安時代	<ul style="list-style-type: none"> ○那珂郡の人口が増加し役人が増員される(843) ○甘粕「東山遺跡」の瓦塔・瓦堂 ○沼上「烏森遺跡」 ○沼上「宮下遺跡」 ○武蔵七党の猪俣氏が活躍する 	<ul style="list-style-type: none"> ○武士の台頭
		鎌倉時代 南北朝時代 室町時代	<ul style="list-style-type: none"> ○沼上「水殿瓦窯跡」で鎌倉市：永福寺の瓦が焼かれる ○広木「広木上宿遺跡」の小型宝塔・小型未開敷蓮華 ○南十条「新倉館」 	<ul style="list-style-type: none"> ○源頼朝 征夷大將軍となる(1192) ○鎌倉幕府の滅亡(1333)

美里町 遺跡の森総合公園案内図





参考ホームページ

<http://www.mapbinder.com/Map/Japan/Saitama/MisatoMachi/Iseki/Iseki.html>

インターネットより

現在地:埼玉県児玉郡美里町大字中里



インターネットより

上図の甘粕西山古墳、前山遺跡方向



上図の甘粕西山古墳、前山遺跡方向



天神山古墳群方向



天神山古墳群方向



美里町遺跡の森館





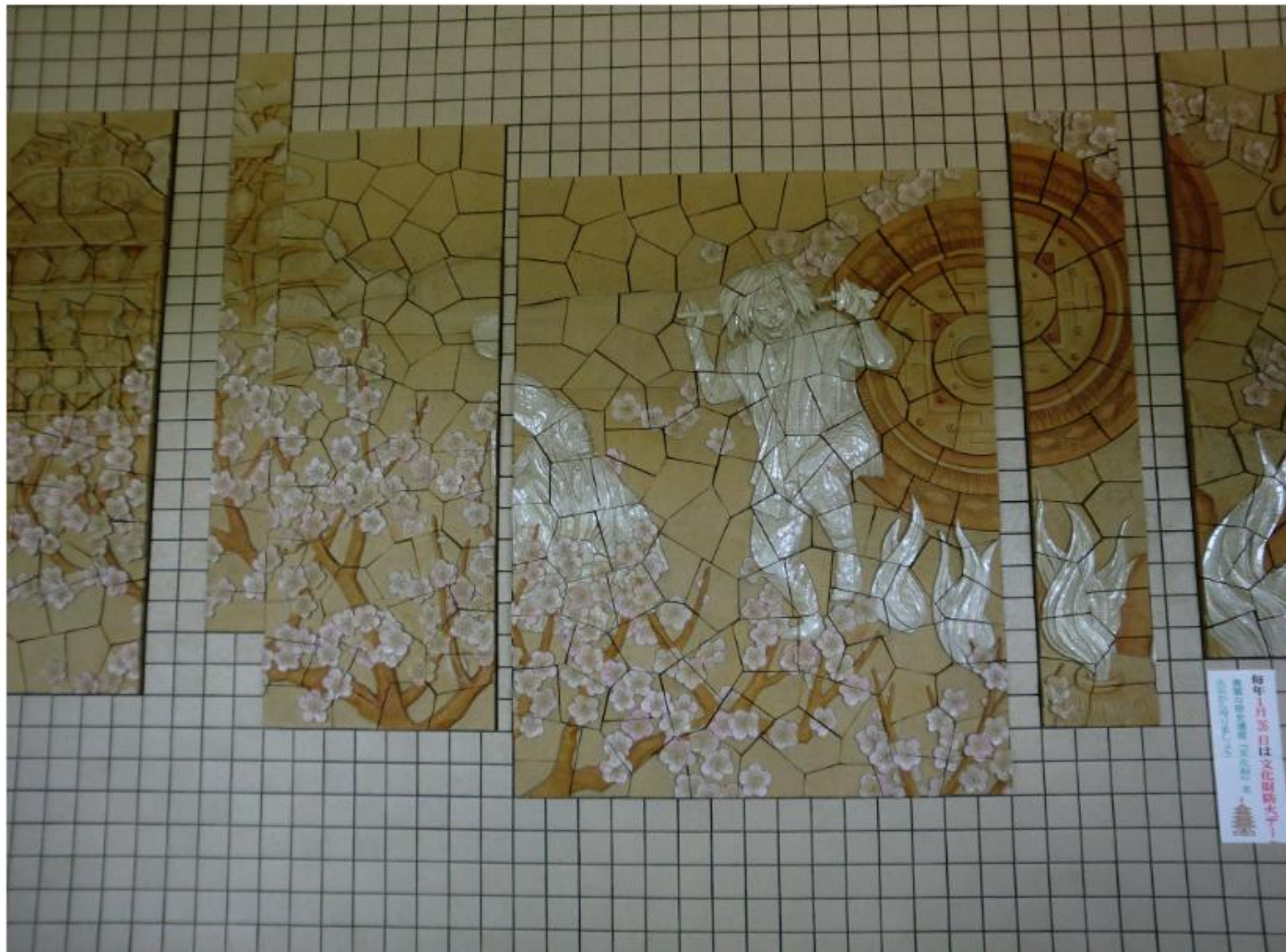


玄関正面の陶壁画について

この陶壁画は、美里町の文化財を模して作成したものであります。

右より一枚目は、広木にある伝大伴部真足女の遺跡、壁画の下部のくぼみの部分は沼上の水殿瓦室跡(国指定)、一枚目から中央上部の円形状のものは、関の長坂聖天塚古墳より出土した方格規矩鏡で直径二三センチメートルと出土鏡としては、埼玉県内最大のものであります。又中央に二人で舞っているのは、関川輪の神楽、左のものが広木の屋台囃であります。壁画の下部に矢に模して見えるのが猪俣の百八燈、壁画全体を杏の花であしらい調和のとれた見事な陶壁画であります。

この陶壁画は九州で製作されたものです。



毎年1月25日は文化財展示です！
1月25日は文化財展示です！
1月25日は文化財展示です！



毎年1月25日は文化財
鳥取県立美術館 文化財部
文化財部 文化財課

鳥取県立美術館
文化財部

鳥取県立美術館
文化財部

鳥取県立美術館
文化財部

募集要項
配布中!

鳥取県立美術館
文化財部

鳥取県立美術館
文化財部

鳥取県立美術館
文化財部

万葉遺跡

伝大伴部真足女遺跡 (県指定旧跡)

万葉集 卷二十

まくらたし は まかな せ
枕 大 刀 腰 に 取 り 佩 き 真 愛 し き 背 ろ が ま き
こ つく
来 む 月 の 知 ら な く

(寝るときも、いつも身辺から離さないで、枕許ににおいていた、あの大切な刀をつけて、私の夫が帰ってくるのは、いつのことかわからない。)

この歌は夫を思慕する妻の真情を、遺憾なく吐露したもので、1200余年後の今日、なお切々として人の胸を打ってやまない。

広木地区の万葉歌碑

広木地区には、万葉集にうたわれている遺跡があります。「万葉遺跡
おおともべの またりめ
大伴部真足女遺跡」と「いさらし井」の2ヶ所で、それぞれの場所に歌碑が建てられています。



万葉遺跡 大伴部真足女遺跡にある歌碑



幾千年の時を超え
よみがえる美里町

1F
企画展示室
伝統継承室
← トイレ

美里町
遺跡の森館
常設展示室
2F

東山遺跡から出土した「瓦塔と瓦堂」



瓦塔と瓦堂

(国指定重要文化財)

この瓦塔と瓦堂は、甘藷畑の東山遺跡から発掘されたものです。粘土を焼いてつくられた土製模型は、寺院の規模や造りにあわせてつくられています。

東山遺跡の瓦塔と瓦堂は、各別を建てたものにつくられたもので、像高の対等として完成に決り、建物の中にあはれていたと考えられています。また、これらがつくられたのは、一層にあつた土製の坪地からして、平安時代といわれています。



瓦塔と瓦堂
(国指定重要文化財)

この瓦塔と瓦堂は、京都府の東山遺跡から発掘されたものです。粘土を焼いてつくられたこの瓦物は、佛刹の遺構や寺院の垣根でつくられています。

東山遺跡の瓦塔と瓦堂は、右様手建てのかわりにつくられたもので、瓦葺の葺き出しでつくられています。また、この瓦物は、一層のみのつくりとなつており、平安時代のものとされています。

瓦塔
平安時代
東山遺跡

瓦堂
平安時代
東山遺跡





瓦堂
平遥明代
大宁村 泰山博物馆

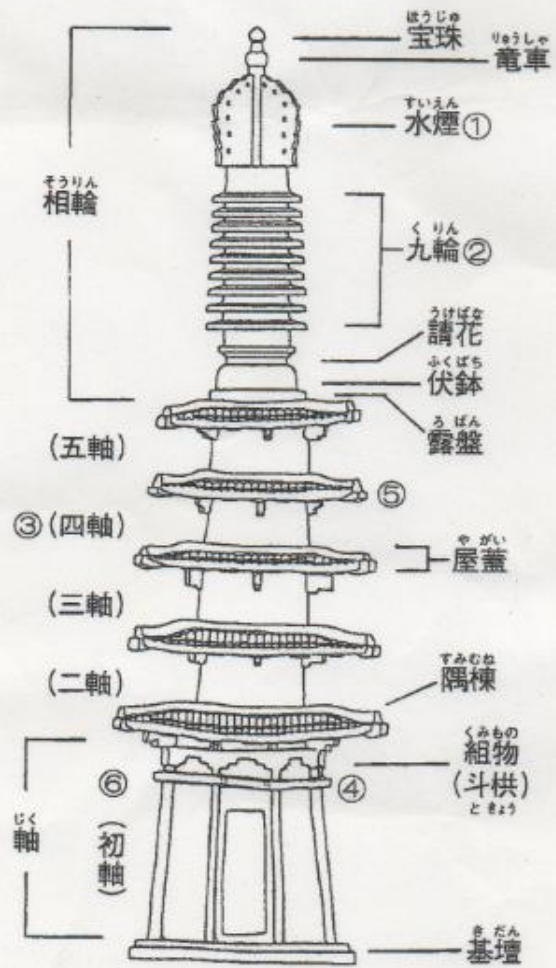


瓦塔と瓦堂（国指定重要文化財）

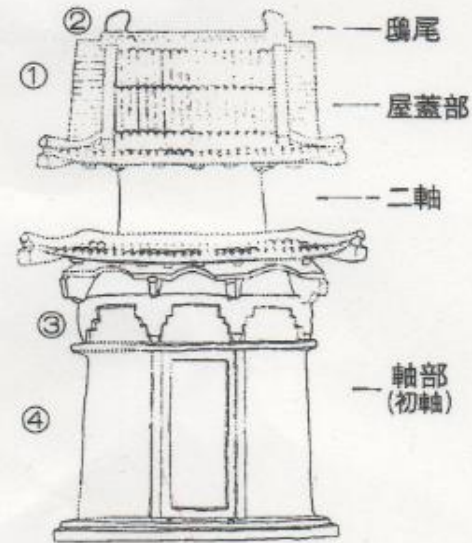
この瓦塔と瓦堂は、甘粕地区の東山遺跡から発見されたものです。粘土を焼いてつくったこれらの土製品は、寺院の五重塔や金堂に似せてつくられています。

東山遺跡の瓦塔と瓦堂は、寺院を建てるかわりにつくられたもので、信仰の対象として大切にされ、建物の中におかれていたと考えられています。

また、これらがつくられたのは、一緒にみつかった土器の年代からして、平安時代といわれています。



瓦塔部分名称図



瓦堂部分名称図

5

奈良・平安時代

奈良・平安時代に入ると、律令制度
を基本とした国家体制が整い、地方で
も行政組織が整備されていきます。戸
籍がつくられ、税が課せられるよう
になり、税として集められた穀類など
を貯蔵するため、^{ほったてばしら}掘立柱建物と
呼ばれる高床式の倉庫もつくられる
ようになります。この時代、まだ東
国^{とうこく}の農民のほとんどは古墳時代
と変わらない竪穴住居に住んでいま
ましたが、一般にも文字が普及しは
じめ、美里町でも集落遺跡から文字
の書かれた土器が見つっています。



瓦塔と瓦堂〈平安時代前期〉(東山遺跡)

【国指定重要文化財】〈複製展示〉



ひがしやま
東山遺跡 (所在地18頁・3-C)

あまがす
甘粕地区にある遺跡です。昭和51年の発掘調査で、掘立柱建物跡付近から瓦塔と瓦堂が発見されました。これらは、寺院を建てるかわりにつくられ、大切に建物の中に置かれていたと考えられています。

美里市教育委員会編より

その脇にこんなものがありました



ひろき かつやく いせき こがた ほうとう

広木上宿遺跡小型宝塔

平成4年9月、県道バイパス工事に先立つ埋蔵文化財発掘調査により、美里町広木地区の広木上宿遺跡の小さな土坑から金・銀・金銅・銅・鉄の異なる5種類の金属より作られた小型宝塔と未開敷蓮華が漆箱に納められた状態で発見されました。金製は21.4金、銀製は純銀に近い95%、金銅製は銅地に金鍍金したもので、何れも極めて精巧に作られた美術工芸品です。製作技法から平安時代末から鎌倉・南北朝時代が推察されますが、埋納時期は周辺の遺構から南北朝時代と考えられます。



宝塔・未開敷蓮華出土状況



第48土坑と周辺



収納箱全体



収納箱と宝塔



収納箱取上げ



宝塔と未開敷蓮華



金・銀・金銅製宝塔



金製宝塔出土状況



左から鉄・銀・金・金銅・銅
報告書より転載

ひろきかみじゆくいせきこがたほうとう

広木上宿遺跡小型宝塔

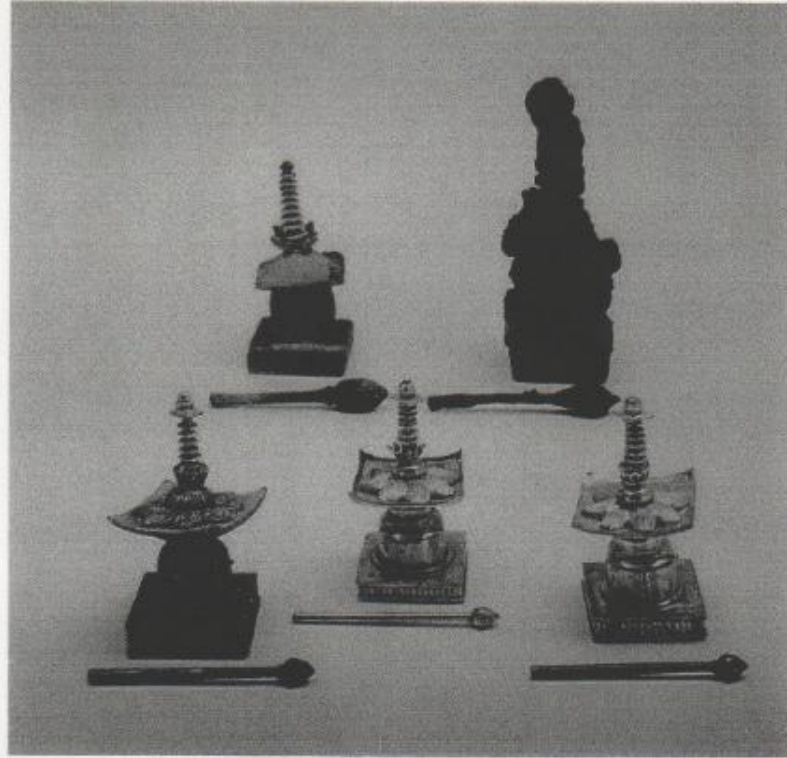
平成4年9月、県道バイパス工事に先立つ埋蔵文化財発掘調査により、美里町広木地区の広木上宿遺跡の小さな土坑^{どこう}から金・銀・^{こんどう}金銅・銅・鉄の異なる5種類の金属より作られた小型宝塔と小型未開敷^{みかいふ}蓮華^{れんげ}が漆箱に納められた状態で発見されました。

金製は21.4金、銀製は純銀に近い95%、金銅製は銅地に^{とぎん}金鍍金したもので、何れも極めて精巧^{せいこう}に作られた美術工芸品です。

製作技法から平安時代末から鎌倉・南北朝時代が推察されますが、埋納^{まいのう}時期は周辺の遺構から南北朝時代が考えられます。

銅製

鉄製



金銅製

金製

銀製

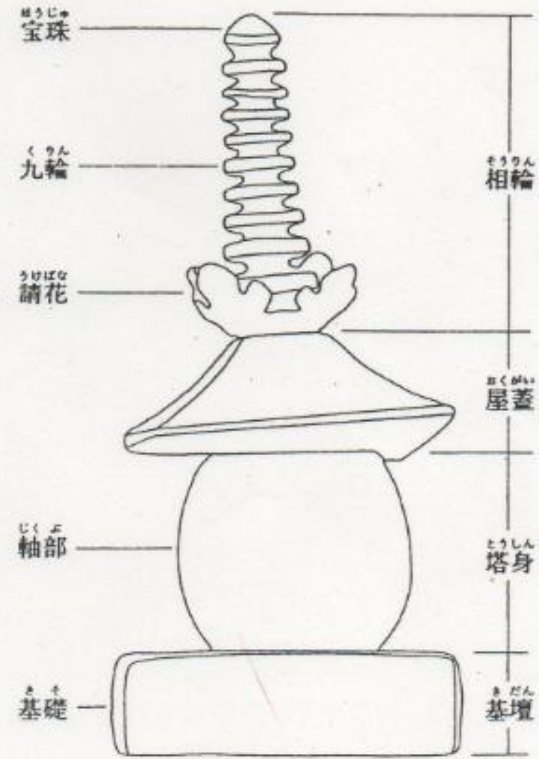
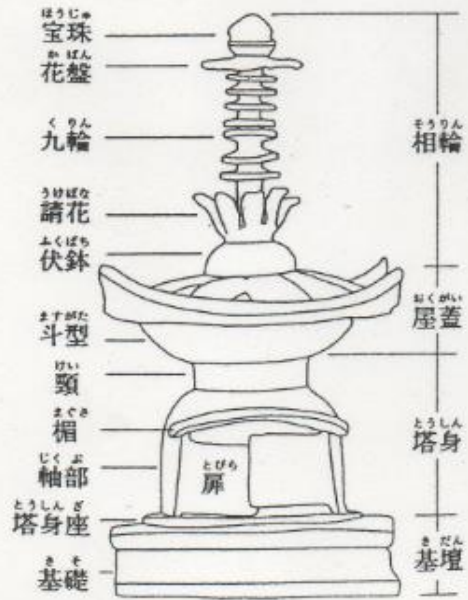
小型宝塔・小型未開敷蓮華（県指定有形文化財）

この小型宝塔と小型未開敷蓮華は、広木地区の広木上宿遺跡から発見されたものです。出土した宝塔は、金、銀、金銅、銅、鉄の異なる5種類の金属により製作されています。小型宝塔のかたちは、基壇—塔身—屋蓋—相輪の4部から構成される。銅、鉄製のものは五輪塔とよく似たものとなっています。

小型未開敷蓮華は、つぼみをつけた蓮華を表現したものです。

製作年代は平安から鎌倉・南北朝時代と推測されています。

小型宝塔部分名称図



0 2cm

五色のこがたほうとう小型宝塔

広木上宿遺跡から、小型宝塔と小型未開敷蓮みかいふれん華が、漆箱に納められた状態で発見されました。これらは、金・銀・金銅(*)・銅・鉄の異なる5種類の金属でできていて、極めて精巧につくられています。

※金銅製は、銅に金メッキしたもの



小型宝塔と小型未開敷蓮華(広木上宿遺跡)〈複製展示〉
〈提供：埼玉県教育委員会〉



金製小型宝塔
(高さ3.46cm・重さ11.41g)

ひろまかみじゆく
広木上宿遺跡 (所在地18頁・3-B)

広木地区にある遺跡で、平成4年度に発掘調査が行われました。出土した小型^{ほうとう}宝塔と小型^{みかいふれんげ}未開敷蓮華(上記写真)は、国内でも類例のみられない貴重な考古資料として埼玉県指定文化財になっています。

美里市教育委員会編より

美里市教育委員会編より

このあたりが小型宝塔・小型未開敷蓮華が出土した道路工事場所





水殿瓦窯跡





水殿瓦窯跡



すい でん が わ ら か ま あ と
水殿瓦窯跡

〈国指定史跡〉

この瓦窯跡は、鎌倉時代のもので、忍上地区であります。窯跡は、断面を掘りつぼめた平床のかわらで、4基が並んで発見されました。そのうちの1基は発掘調査されましたが、残りの3基はそのまま保存されています。

この窯跡で焼かれた瓦は、鎌倉市にある国指定史跡久松町のこわれた屋根を修繕するために使われたものといわれています。

実物館でつくられた瓦が、鎌倉真岡の中心地まで運ばれ、使われたことがわかります。

美里『水殿瓦窯』
と
鎌倉『永福寺』



6

鎌倉時代以降（中世）

中世とは、鎌倉時代から室町時代までをいいます。鎌倉時代になると平安時代末期に結成された武士団が全国的に飛躍するようになります。関東地方では武蔵七党が知られていますが、そのひとつ猪俣党は美里町の猪俣を本貫地として館を構え、武蔵武士として鎌倉幕府誕生に貢献します。今まで貴族や公家により支配されてきた政治の世界は、鎌倉幕府の成立で武士を中心に展開するようになります。美里町の中世の遺跡には、水殿瓦窯跡、広木上宿遺跡、新倉館跡などがあります。



水殿瓦窯跡【国指定史跡】





鎌倉市永福寺出土瓦〈提供：鎌倉市教育委員会〉

水殿瓦窯跡 (所在地18頁・2-B)

沼上地区にある鎌倉時代の瓦窯跡で、調査により現在4基の窯跡が確認されています。ここから出土した瓦は、文治5年(1189)に源頼朝が建立した鎌倉市二階堂永福寺跡から出土した瓦と類似していて、



水殿瓦窯跡・第1号窯跡



永福寺の想像画〈提供：鎌倉市教育委員会〉

この窯で焼かれた屋根瓦（軒平瓦・平瓦）が永福寺の大改修（寛元・宝治年間1243～1249）の際に使用されたものと考えられています。







水殿瓦窯跡すいでん

国指定史跡（昭和六年十一月二六日）

この窯は鎌倉時代のもので、この付近の粘土を使い、ここで瓦を焼いたものです。

この窯跡から斜格子文様の平瓦や刻頭文の軒平瓦が発見されています。

窯の長さは三・三メートルで函窯と焚場がらできていて、函窯は、巾一・一メートル、奥行一・一五メートル、深さは前壁で一・二メートル、後壁一・一五メートルです。底に四条の縦溝と三本の畔があります。溝は前方の焚場に通じ、火気を呼ぶようにつくられています。奥壁の上部から二四センチメートル、下方に約六センチメートル角の穴一個があり、煙出しとなっています。

平成元年に確認調査が行われ、この窯の東側に、並行して更にもう三基の窯が発見されています。

美里町教育委員会





馬形埴輪





NO!!

美里町指定文化財

馬形埴輪

圓形埴輪

左右で異なる馬具をもつ 馬形埴輪

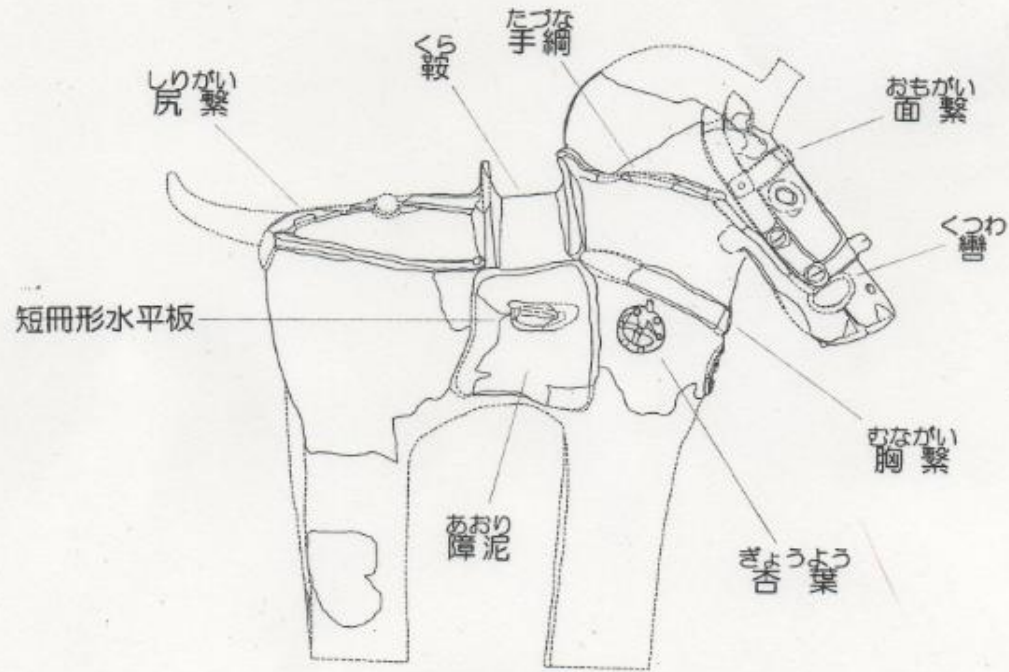
人は、古来より物を運ぶときや乗りものとして、馬をくらしに役立ててきました。馬は大きな動物ですから、人が乗るには足をかける鐙（あぶみ）を用います。また、ふつう馬には、またがって乗るので、馬の腹の両側にこの鐙があるのが一般的です。

ところが白石古墳群の久保 2 号墳から出土した6世紀後半の馬形埴輪には、この鐙（輪鐙）が左側にしかありません。右側の同じところには、水平な板のような突出物（短冊形水平板）がついています。

ではこの突出物は、いったい何のために使われたかというところ、
「馬にまたがって乗る人のためでなく、横座りをする人のためのもの」
というのが意見があります。

人が馬に乗り 「横座りをしたときに足をそろえて置いたり、足の滑り止めの用途に用いられた付属具」 という考えです。

このような特殊な馬形埴輪は、現在、日本国内で9例ほどが知られていますが、そのうちの2例が美里町から出土しています。



馬具の名称

あすか
 ようこそ さいたまの飛鳥へ

あすかの飛鳥 飛鳥京跡の木簡

これらの木簡は、奈良県明日香村の片岡古墳群から発見されたものです。飛鳥浄御原宮が
 築かれた時代(672-694年)のもので、その中のひとつに武蔵国郡守郡持部(東屋敷)が
 ら簡(簡書物)として贈り献上したことが記された木簡(高木)が数枚見つかっています。



「飛鳥・万葉時代」の美里

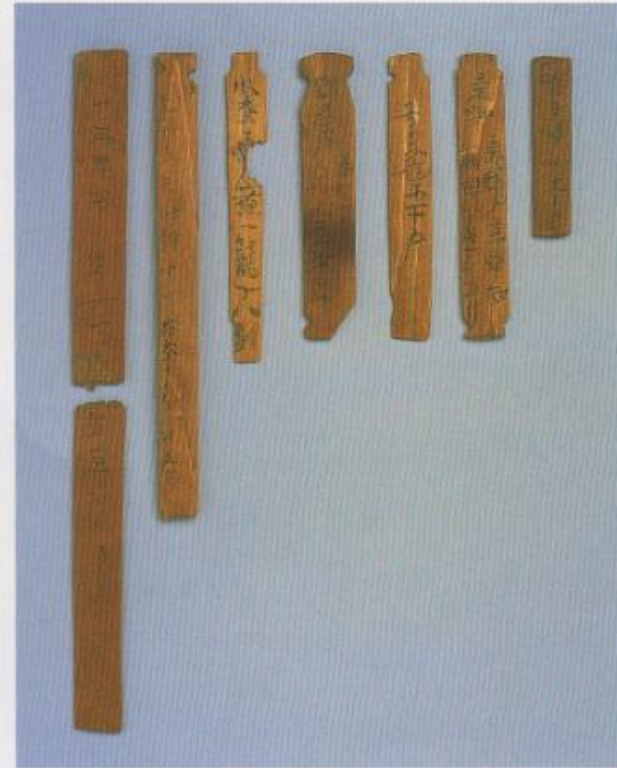
飛鳥京跡から美里の木簡が出土

奈良県明日香村の「飛鳥京跡」から発見された木簡(荷札)の中に、武蔵国那珂郡那珂郷(美里町)のものがありません(左から2番目)。これは、飛鳥浄御原宮が営まれた時代(672~694年)のもので、木簡には贄(天皇家の食膳に供される貢ぎ物)として鮎を献上したことが記されています。木簡を調査すると、各地方から都におくられた産物が見えてきます。

「无耶志国仲評中里布奈大贄一斗五升」

〈読み方の例〉むさしのくになかのこおり

なかのさとふなおおにえいつとこしろう



奈良県 飛鳥京跡出土の木簡
〈提供：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館〉

近くに廃寺跡がありました/この道路の両サイドが駒衣(こまきぬ)廃寺跡、別名、大仏廃寺ともいう





周辺には武蔵武士、武蔵七党の猪俣党ゆかりの墓がありました





猪俣小平六の墓

県指定文化財(昭和38年8月27日)

小平六は、小野篁おののむねの子孫で時資ときすけの代に猪俣村に住んで以来猪俣氏と称し、武蔵武士の猪俣党として勇名を馳せた。時資ときすけ四代の子孫が小平六せいはら範綱のりつなであり、かつて源義朝みなもとのよむねに従って軍功を立て、当時義朝の十六騎の雄将として知られている。

また、頼朝よりともに仕え、しばしば戦場において功績があった。

建久三年(一九二一年)十一月に死去した。毎年、盆の十五日の夜、この墓前と前方の山に百八燈がともされ、小平六とその一族の霊を慰める行事が行われている。

美里町教育委員会

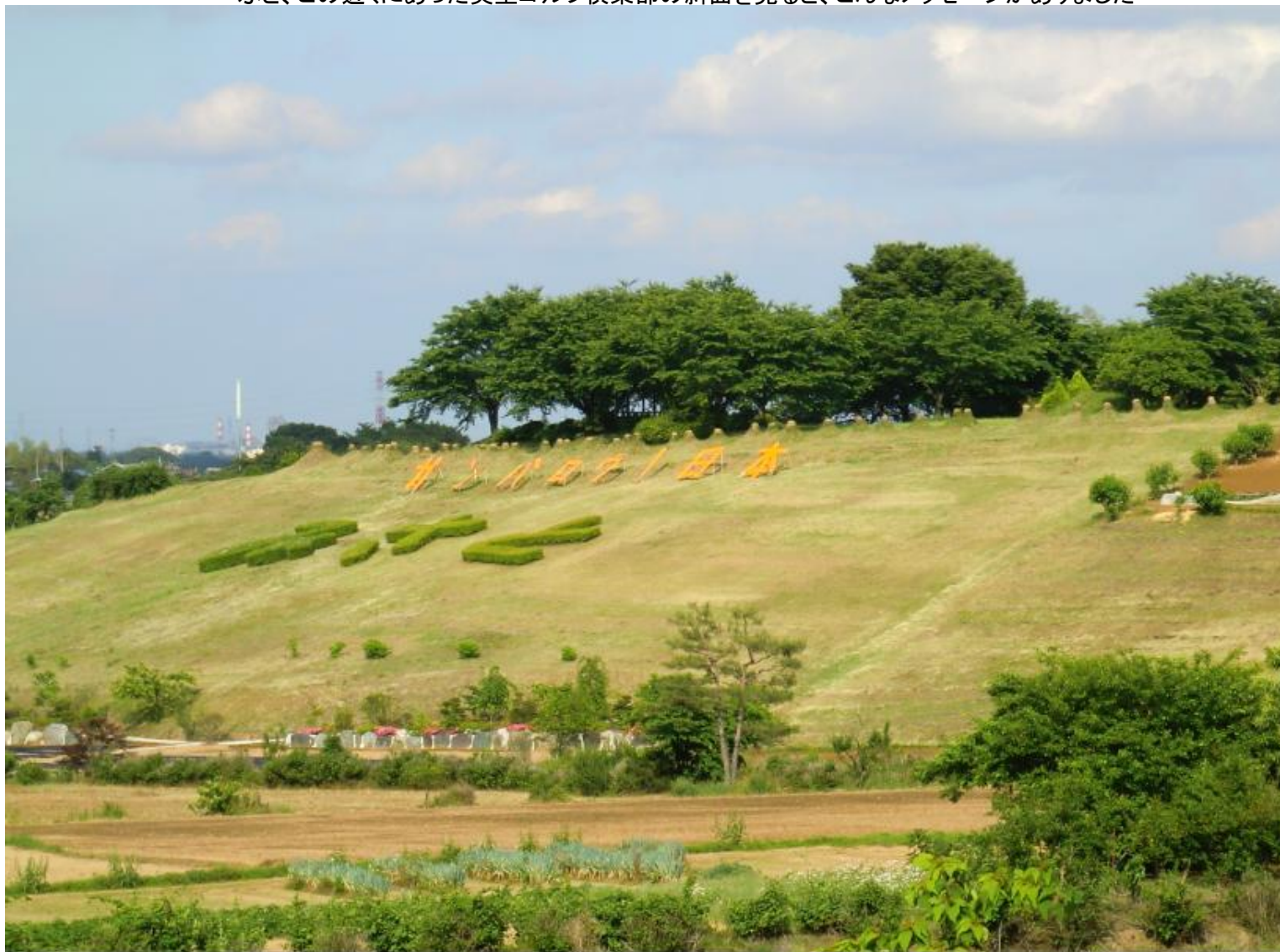




高台院



ふと、この近くにあった美里ゴルフ倶楽部の斜面を見ると、こんなメッセージがありました







←水殿瓦窯跡

←廣木上宿遺跡

↓美里町遺跡の森館

↓東山遺跡





↑ 高台寺



←駒衣廃寺跡

宮川進氏「さいたま古墳めぐり」より